

会 議 事 録

1	会議名	令和2年度 第2回長岡市高齢者保健福祉推進会議
2	開催日時	令和2年11月6日(金曜日) 午前10時から午前11時15分まで
3	開催場所	アオーレ長岡 東棟4階 大会議室
4	出席者名	(委員) 本田委員長 川崎副委員長 穴澤委員 鯉江委員 小林啓一委員 小林守委員 佐藤委員 竹内委員 西山委員 長谷川委員 林委員 古川委員 八子委員 山崎委員 山田委員 吉井委員 (事務局) 福祉保健部長 福祉総務課長 介護保険課長 長寿はつらつ課長 健康課長 長岡市社会福祉協議会事務局長 ほか関係職員
5	欠席者名	岡村委員 覚張委員 村松委員 米山委員
6	議題	(1) 第8期計画の総論(案)について (2) 第8期計画の策定作業の進捗について (3) その他
7	資料	別添のとおり
8	審議の内容	
	発言者	議 事 内 容
	福祉総務課長補佐	○配付資料の確認等
	委員長	○委員長あいさつ お忙しいなかお集まりいただき感謝申し上げます。 前は8月に皆様からお話を承り、意見交換をした。また、本日は3年に1度作っている8期計画の総論部分について説明をしながら、皆さんの意見や日頃の考えをどんどんと意見として出していただけたらと思う。皆さんと共に良い第8期の計画を作り上げていきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。 ○会議の傍聴・公開についての確認 ※傍聴者なし

<p>福祉総務課長</p>	<p>○議題 (1) 第8期計画の総論(案)について (資料No.1、資料No.3に沿って説明)</p>
<p>委員長</p>	<p>前半は人口、需要者数、高齢化率、全体との関係、そして後半は保健福祉計画の基本方針と施策の体系となっている。これから8期計画を立てようとしているわけだが、皆さんからここをもう少し強くしたほうがいいとか、今の実態はこうであるとか、やはり福祉、介護の現場の声として、施設の皆さん、地域の民生委員の皆さん、あるいは地域の中で色々な活動をしている皆さんも含めて、お話し合えればと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>言葉が難しくて分からないのだが、資料24ページ一番下②「介護予防への主体的な取組の支援」の項目で、「全ての高齢者が気軽に参加できる通いの場の立ち上げ、活動支援に力を入れ、」と書かれているが、通いの場とは、具体的にどのようなことを指すのか。また、通いの場の立ち上げについて、今はまだ無いのか。</p>
<p>長寿はつらつ課長</p>	<p>この通いの場は現に立ち上がっており、長岡市内で介護予防サークルやはつらつ広場といったものが、高齢者の方々どなたでも気軽に参加できる介護予防運動を中心として、運動に限らず、気軽に通っていただき、茶話会等で交流をする、介護予防サークルが市内に約300くらいある。はつらつ広場は50くらいある。それが少ない地域であったり、地域によっては、立ち上げされていない所もあるので、今後もそういった介護予防を中心にやっていただき、高齢者の方々が気軽に集まって健康増進につなげていくようなことを考えている。</p>
<p>委員長</p>	<p>現在、介護予防関係のサークルが相当な数あるわけだが、数字的な部分を少し入れておくと納得感が得られると思う。市はこういうサークル数を把握していると思うが、市民からするとどのようなイメージしにくいだろう。数字なり、もう少し表し方を変えたいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>資料の27ページの施策の体系図3番のところをお願いしたいことがある。ここで言う地域について、前回会議でも申し上げたが、次の28ページ、29ページに日常生活圏域の設定というのがあり、11圏域あって、これが地域包括支援センターの担当地区に合わせたものになっているとのことで、この計画を見ればもちろん理解で</p>

	<p>きる。ちなみに私自身が新町地区なので 1 番の川東地区西で、千手、表町と一緒にですよと設定されているというのは理解出来るが、現実的には、一般市民の考える地域というのは、小さい所では町内会、もう少し広げれば小学校区にあるコミセンエリアを意識するのではないか。地域といえば、本当はそっちだろうと思うので、そこまで落とし込むのか、11 圏域でいくということであれば、ここで言っている地域はこういうものですよと説明しないと理解しにくいのではないか。地域と簡単に使うが、どこかと言われた時、一個人としてももう少し分かりやすいほうがいいと思うし、本当はせめて小学校区エリアの地域で支え合う仕組みでないと、高齢者は行動範囲が狭いし、元々の住人の意識もそっちのほうが強いと思う。何かその辺がうまく整合性が取れないか。意見であり質問でもあるが、よろしくお願ひしたい。</p>
<p>福祉総務課長</p>	<p>委員が言われたように、ここで書いてある地域というのは、日常生活圏域というよりは、むしろコミセン単位、町内会単位というところがメインとなってくるかと思う。日常生活圏域になると、中学校区単位というかももう少し広い範囲になるので、日常生活圏域と地域の違いについて説明を入れるような対応を検討したい。</p>
<p>委員長</p>	<p>日常生活圏域というのは、包括支援センターの範囲でよいか。</p>
<p>福祉総務課長</p>	<p>はい。</p>
<p>委員長</p>	<p>そうすると、いろいろ包括支援センターが置いてある、そしてそれが、例えば川東地区の東という様な形になっていると、大きな意味でのコミュニティ活動のコミュニティと、それから、中学校区単位のコミュニティと、同じコミュニティでも色々あるので、そこを整理する必要があるのかなと思う。</p> <p>包括支援センターについては変えられないにしても、今やっているものを大事にしながら進めて行くとしたら、表し方で分かりやすくするというのはどうか。ご意見があればお願ひしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>地域の定義というのは難しいと思うが、地域の普段関わっている人達の範囲というのが一番いいのではないかと思う。そのため、かなり小さくしていく必要もあるのではと思う。</p> <p>それからついでにお話しさせていただきたいのだが、先ほど 24 ページの所でもお話があったが、私もアンケートをやって気になっていた所があった。例えば、老人クラブとか非常に活動が縮小しているが、何故そうやってきたのかというと、団塊の世代が高齢者に</p>

	<p>なってきた、住み方が団塊世代の前の場合は基本的に農業が中心で、その地域で生きているわけだが、団塊の世代はみんなサラリーマンになってきた。そうすると、生きる社会が変わっている、介護に対する意識や健康を維持しなくてはならないという意識は非常に高まってきているのだが、関わり方が変わってきており、例えば私の上司だと、Zoom(=オンラインのビデオチャットサービス)で囲碁をやっている。昔の会社の仲間と、そういう関わり方になってきている。だから、地域で支えるということも大事だが、地域だけの支えではない違う在り方も検討するというか、そういうのも重要ではないかなと思った。そこをどうやって結びつけていくかが重要で、他のものはきちっと整備していけば、ある程度達成できると思う。が、人の心の問題は、そういうものではないので、そこが結果的に、用意はしたけれど使われない施設でしたねというのはまずいので、その辺の在り方を片隅においてもらえるとありがたいなと思う。</p> <p>あともう1点、文句を言おうと思っているわけではないが、最初の人口の所は住民基本台帳をベースとしているはず。各年が出ないから国勢調査ベースではないと思うが、ここでは40歳以上がターゲットなので、住民基本台帳≒国勢調査と正しいと思うが、総人口になると住民票を置いていない20歳前後の学生もいて、逆に住民票を長岡に置いて、東京へ出て行っている場合もあるので、国勢調査のほうが実態に近いとも言える。その辺について本当によいかということと1度チェックが必要かなと思う。それと、一番最初に人口の説明で、厚生労働省から指示のあった推計データを使っているが、長岡にはリジュベネーションに掲載している変な人口、つまり将来予測が非常に高い推計人口があるので、それを使わないことが正解だと思っている。</p>
委員長	<p>人口が減少しているのは自然減、社会減、両方なのか。</p>
委員	<p>長岡の場合は自然減も起こってるし、社会減も起こっているという両方の状況である。</p>
委員長	<p>承知した。他にご意見あればお願いしたい。</p>
委員	<p>18、19 ページの基本方針と施策体系のところだが、地域包括ケアシステムについては7期計画でも挙げられているが、包括ケアシステムにおいて医療と介護の連携は大事なことではあるが、先ほど説明を聞いた中で、地域包括ケアシステムの要となるサービスの一つの小規模多機能が休止・廃止という報告があったが、この辺の原</p>

	<p>因はどこにあるのか。また、その原因の1つとして、介護人材不足が挙げられると思うが、その中で把握すべき地域の実態調査の中に介護人材の実態調査はしているのか。していないのであれば、介護人材の実態調査を把握するべきではという気がした。</p> <p>もう1点は、特養の待機者数というのが、資料の中にあつたが、特養の申請者＝待機者ではないと思うので、もう少し突っ込んで真の待機者を精査する。代替サービスが受けられたりだとか、それから多様な住み方もあるので、そういうところの調査が大事だと思う。</p> <p>もう1点、1番お願いしたいことは、住み慣れた地域で暮らすことを実現するためには、どういうサービスの組み合わせでそれが可能になるのかという分析、もちろんしていると思うが、そこが大事な気がして、サービスの組み立てによって在宅が可能となっている。もしそうでないなら強化して8期計画を策定してほしいと思った。</p> <p>もう一点、地域包括ケアシステムというのは高齢者だけでなく、障害者や引きこもりを含めた考え方にかかなり進化しているので、この計画の中で地域共生社会に向けた方向性が入らなくていいのかなと感じた。どの様にお考えなのかをお聞きしたい。</p>
介護保険課長	<p>まず最初に、小規模多機能の減少・廃止については、主な要因として、利用する際に利用料が高めに設定されていること、新規の方がなかなか出てこないことなどによって、廃止もしくは縮小、中止となっていると聞いている。</p> <p>それから、特養の待機者の話だが、こちらもただ単に特別養護老人ホームだけの待機者ということではなく、特定施設など、こちらのほうもこれから調べていかないといけないと認識はしている。</p>
委員長	<p>ご意見があればお願いしたい。先ほどの人材難というところも色々抱えている問題があると思うが、市全体を見た形でご意見いただければと思う。</p>
委員	<p>先ほど他の委員からお話いただいたが、私共の法人のことだが、支所地域の人材難で、小規模多機能が休止したりという動きがある。地域性もあって、私共は郡部のほうにも事業所があるので、いい人材を配置するのが厳しいという状況がある。小規模多機能はその最たるものだが、他に特養とか、通常のショートもある、デイもある、ホームヘルパーの事業所があるという状況になると、他のサービスでカバーできていくところがあるので、それに変わって、その中で</p>

<p>福祉総務課長</p>	<p>サービスをカバーしていくという形をとっている。全体として介護人材が不足している状況の中では、法人内でどのサービスに重点を置いて人を配置していくのか、優先順位に苦慮しているという状況はある。</p> <p>もう1点、総論とは話が逸れてしまうが、コロナ禍において不測の事態が考えられる中で、市全体として安定して介護サービス事業が提供できる様な環境があるといいなと思っているのでお願いしたい。</p> <p>コロナに関しては、前回の会議で説明した国の基本指針の中でも、感染症対策を第8期計画に盛り込む形で、基本指針が示されているので、今後策定する各論の中に盛り込みながら、感染症禍でもサービスが継続していける環境を作っていきたいというところで内容を検討する予定となっているので、ご理解いただきたいと思う。</p>
<p>介護保険課長</p>	<p>先ほどの特養の待機者について、具体的に名簿を取り寄せており、実際の数については把握している状況である。今現在、集計中なので、引き続きどのような方が待機されているか等を把握していきたいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>現状と課題の中に、介護を受ける方とサービス提供する方々がいて成り立つのが介護だが、介護者の現状や実態とか、例えば介護の期間や、男女別、老々介護、8050問題などで、70歳の方が90歳代の方を介護していたり、男性で家事をしながら介護をされている方もいるとよく耳にするのだが、介護をしている方の現状や実態が見えてこないと感じる。先ほどご質問のあった特養待ちのこととも繋がってくるが、民間の施設はあるが、費用が高くて皆さん特養を希望される。特養は要介護3にならないと入所申請できないが、介護が長引くと心労が重なる、そこら辺の実態が見えているのかどうか聞きたい。私も勉強不足で分からないが、入所待機待ちの方の把握もされているようだが、入所までの期間や、その間に介護者が入院してしまうなどの事態も耳にする。介護疲れの後に入所できない場合、今は入院が厳しいので、やはり施設を希望される方が自分の周りにもいるので、そういった場合の対応策がこの計画の中にどういった形で出てくるのか。</p>
<p>長寿はつらつ課長</p>	<p>今回総論ということで、介護されている側、老々介護の現状、あるいは介護の期間や、男性がどれくらい介護されているか、女性がどれくらいといったことについて、総論では数字的なことを取り上げていない状況だが、今後、ご意見をいただいたように、当然受け</p>

	<p>入れる側の施設の問題や、それに対して市がどういった計画をもっているかということも重要だと思う。介護者の視点等も考えながら、今後議論される予定の各論部分において、そこにどうやって寄り添っていくのか、施策の部分でそういった視点を取り入れながら、具体的な話をさせていただければと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>各論を進める中で、介護する側のことを加味しながら計画が作られると良いと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほどもお話したが、やはり在宅生活を可能にするサービスの組み合わせの部分が市民の方に分かってもらうことが大事だなと思う。また、小規模多機能の本来の役割とはどういうものなのか、市側もサービス理解のための働きかけをしていくということと、事業者側も事業のことを普及する仕組みをしっかりとやっていかなければいけないとつくづく思った。そういう所をみんなでやっていくことが大切だと感じた。</p>
<p>介護保険課長</p>	<p>私共としても、小規模多機能がどういうサービスになるのか、どういうサービスの組み合わせをするとよいかなど、市民の方に広報等を通じながら、訴えかけていきたいと思っている。また各論の中でも、それに触れられたらと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>小規模多機能はこういう組み合わせが出来るのか、こんな機能がありますよ、こんなサービスもありますよといった形で、市民の皆さんにわかりやすく情報を出していただけたらと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>ここの会議で言うべきか、部会で言うべきか分からないがお話したい。地域包括支援センター圏域だと、栃尾はすごく広くて、人口は少ないかもしれないが、対象者1軒1軒の距離が離れている。それから、高齢化率が40パーセントを超えているので、1番高齢化率が進んでいることも踏まえて、地域包括支援センター1か所では足りないように感じる。この前の部会でも、利用者の不満があっても、それを評価する場所がないと話したが、やはり人数が少ないとか、場所の割には1か所というのが難しいのか、1か所でいくのであればもっと回れる人数を配置しないと回り切れないのではないかなと思う。そういうのは、包括支援センター圏域だけでとらえてしまうと、栃尾はあまりにも、対象者と地域が広すぎると感じている。</p>
<p>長寿はつらつ課長</p>	<p>先般も委員からは部会のほうでも栃尾のご提案いただいたところだが、すぐに支援センターを2つ作るとか、栃尾の地形の問題もあ</p>

<p>委員長</p>	<p>り、単純に人口割できないというのもよく承知しているので、そこは部会や長寿はつらつ課の今後の検討課題にしたい。けれども、すぐに支援センターを2つ作りますということはこの場でお約束できない。今後の検討課題とし、体制の問題、人数の問題もこれでいいのか、人口割で単純に職員数を決めていいのかということもあろうかと思うので、継続的にお知恵をいただきながら検討したいと思う。</p> <p>確かに、ただ数字だけではできない面的な面もある、そこに人がいるという様な感じだが、それをどう効率的に、理に適う形で進めたらいいのかという話であった。またそれを加味しながらお願いしたい。</p> <p>それと今、長岡市社会福祉協議会も山古志にデイサービスをやっており、当初は2,400～2,500人の人口だったのが、地震や高齢化などで1/3の876人になった。同じ地域であっても人口は縮小する一方で、高齢化によりニーズ自体は上がるわけで、委員も先ほど言っていたように大変な状況がある。加えて、介護人材が不足しているという問題もあり、同じ地域であっても時間とともに変化してきたことを感じる。数字を見るのも基本的に必要だが、地域の実情が色々あることを見た形で計画策定をお願いしたいと思う。地域の特性を見ながら進めてほしい。</p>
<p>福祉総務課長</p>	<p>(2) 第8期計画の策定作業の進捗について</p> <p>(資料No.2に沿って説明)</p>
<p>委員長</p>	<p>今後計画策定に向けて12月、3月にこの会議が予定されており、その間、市では大変な作業があると思うがよろしくお願いしたい。</p> <p>(委員からの質問等なし)</p>
<p>委員長</p>	<p>(3) その他</p> <p>それではその他、事務局から何かあればお願いしたい。</p> <p>(事務局からの連絡等なし)</p>
<p>委員長</p>	<p>本日は皆さんが日頃思っていることを話していただいた。それが</p>

<p>福祉保健部長</p>	<p>計画に反映できるものと、それを具体的に進めて行くものと色々あるがひとつお願いしたい。では、進行を事務局にお返しする。</p> <p>○福祉保健部長あいさつ</p> <p>本日はお忙しい中、皆様から活発な議論いただき感謝申し上げます。10月に市長選挙があり、磯田市長が2期目に突入したが、地域共生社会の推進と健康寿命の延伸を掲げており、それを踏まえ、色々な施策展開をしていくことになっている。本日の議論の中で、そういうことを支えていくのはやはり人であり、これは専門職の方、地域の方、ご家族など介護する方など、いかに人を確保していくかがこれから重要になると思っている。次の8期計画の3年間で何とかなるものではないと思うので、中長期的な取組になるかもしれないが、何かしらの形でルールを敷いていきたいと感じた。本日も色々なご意見をいただいたので、これを踏まえて総論を精査し、次回ご審議いただく、より具体的な各論の内容に繋げていきたいと思う。この会議は今年度あと2回予定しており、次回は年末のお忙しい中になるが、皆様にはご協力をお願いしたい。</p>
<p>福祉総務課長補佐</p>	<p>○閉会（事務連絡）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の会議は12月中の開催を予定している。委員の皆様には、開催日時が決まり次第、速やかに御案内させていただく。 ・ 本日の会議録は、後日委員に送付すると共に、市のホームページにも掲載するので、ご承知いただきたい。